

準グランプリ



あたりまえを楽しむ庭時間

株式会社緑と暮らしの庭設計 新井規夫様

住宅の新築に伴う外構工事を担当させていただいたA様邸。ご夫婦二人暮らし。徒歩圏内に奥様のご実家とお姉さんのご自宅があり、A様邸はその真ん中に位置しています。また、駅も近いという立地から通勤通学で目の前の通りを利用する方が多い場所です。そのような条件もあつてか、A様ご夫妻の要望はふたつ。【近くに住む家族が中継地点としてふらっと立ち寄りたくなるお庭】と【自然たっぶりの池のある公園のような庭づくり】でした。

土地は150坪と大きな土地で、奥行きがあつて高低差がないため平坦でつまらない形状。そこですまは盛土工事からはじめました。A様邸の基礎は地面から50cm程度と高く、一般的な住宅に比べて基礎の主張が強く感じやすい構造です。盛り土工事を建築後に行うことで、お庭との高低差を緩和できるだけでなく基礎部分も隠すことができ、素敵なカラーリングの外壁に目が向くようになります。

また、道路からのアプローチ部もゆっくり登っていく演出をつけることが可能になり、さらに両脇に築山を設けることでさらに高低差を感じ、遠近感のあるアプローチを作ることができました。

このことで木の高さを変えるだけでは生まれない「リズム」が生まれ、通る人が思わず覗き込みたくなる衝動に駆られます。お庭の中には高低差を利用して川と池の造作を行いました。メインツリーにカツラの単木を植えて池をお

庭の中心に据えます。あとは植物を植えていくだけとなりました。

難しい造作を行わないことで自然に近い空間が生まれ、肩肘張らずに過ごせる公園のような憩いの場になったのです。もちろん、完成した時がピークではなく、年々成長し変化を頼むことができるという点がポイントです。

おじいちゃんおばあちゃんが遊びにきて雑草と一緒に抜きながら会話。落ち葉を集めながら笑い話。お姉ちゃんと甥っ子姪っ子が遊びに来れば賑やかで笑いの耐えない空間に早変わりします。ピオトープはさまざまな動植物を集めますし、思いがけない変化を探しに子供達も集まります。

管理が大変だ、という理由で楽しむことを忘れていませんか。管理することもみんなで楽しみつつ、素敵な思い出の一つになります。その空間には人が惹きつけられ、自然と足を運びた

くなるのです。

当たり前のことが特別な時間になって思い出になって家族が集まる。そんなA様邸になったと思います。



講評



特別講師
岩崎 京一郎

施主様の希望に、土地の条件や住環境のバランスを見ごとに配慮した設計デザインであることが大きな選定理由となりました。

住宅造成地にはありがちな平坦な土地を、敢えて盛り土をし、起伏をつけ平面的な動線だけでなく立体的な動線をつけたことにより、「自然と足が向くリズム」を生み出す手法が高評価となりました。

また、ピオトープを作り、池のそばにシンボルツリーとなるカツラを植えたことは、水を好む植物であることを理解して植栽されており、将来、大きくなるであろうことを考えて、十分なスペースに配植されています。

年々成長し変化を楽しむことができる庭として、共に成長するご家族（徒歩圏内に住まれる奥様のご実家とお姉さんも含めて）のコミュニケーションの場としての素敵な庭になっていくことを期待しています。

